一般社団法人
佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会

回覧

創刊号 No.1

しまみらい通信

みんなが笑顔で
すこやかにすごせる
地域をつくる

明日へ安心をつなぐ

Interview

どうなるの？ これからの佐渡の医療

佐渡の地域福祉を支える「縁の下の力持ち」
佐渡市社会福祉協議会の挑戦

About Us

一般社団法人 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会

「しまみらい」ってどんなところ

Event Info

「人生を豊かに生きる」セミナー開催のご案内

Spot Light

佐渡で輝くミャンマーの介護士：異文化の壁を乗り越え、未来を拓く

一般社団法人 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会（しまみらい）R7年9月1日 発行 0259−63−6376 / 佐渡市 社会福祉部 社会福祉課 0259-63-5113

明日へ安心をつなぐ

このたび一般社団法人佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会の機関誌「しまみらい通信」を創刊する運びとなりましたことを、協議会を代表して報告させていただきます。

私たちが暮らす佐渡市は、豊かな自然と歴史に育まれた魅力あふれる島です。しかしながら全国平均を上回る少子高齢化が進み、人口減少や医療・介護・福祉の担い手不足、さらには島という地理的な特性から生じる様々な課題があるためこの地域において医療・介護・福祉の提供体制を維持し確保し続けていくことは、まさに島の未来に関わる重要な課題となっております。

当協議会は、こうした佐渡市の現状を深く認識し、医療・介護・福祉の各分野が緊密に連携し、島内で暮らす全ての皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、質の高いサービスを継続的に提供できる体制を構築・維持していくため設立されました。

その目的達成のため私たちは医療・介護・福祉を提供する体制の確保を最重要課題の一つと捉え、多職種連携を推進して、地域課題の解決に向けた関係機関との協議を重ね、人材育成支援や住民の皆様への啓発活動など、様々な活動に取り組んでおります。これらは島の医療・介護・福祉の未来を築いていくために必要な積み重ねであると考えています。

このたび年二回発行の機関紙「しまみらい通信」を創刊するのは、当協議会の活動状況や取組み、そして佐渡地域における医療・介護・福祉に関する様々な情報を、関係者の皆様だけでなく、広く島民の方にも分かりやすくお伝えするためです。私たちの取り組みが島の未来すなわち「しまみらい」にどう繋がっていくのか、その道筋をお示しできればと考えています。

平成三十年に任意団体として設立され、令和三年に一般社団法人と形を変えた佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会ですが、これまでに築かれた実績を引き継ぎ、佐渡地域が抱える課題解決のために住民の皆様、そして関係機関の皆様のお力添えを賜りながら少しでも前へ進めていきたいと考えています。

そして、この「しまみらい通信」が皆様と当協議会を結ぶ架け橋となり、共に佐渡のより良い未来を創っていくための一助となれば幸いです。

絶滅することを危惧されてから見事に復活を果たした「佐渡の朱鷺」のように、佐渡市の医療・介護・福祉が今後も実り多く豊かに続いていくことを祈念し、創刊のご挨拶とさせていただきます。

理事長
三國 栄

Interview

どうなるの？ これからの佐渡の医療

佐渡市 健康医療対策課 課長
兵庫研司様に伺いました。

少子高齢化と人口減少が進行する佐渡市。私たちの生活を支える上で欠かせない医療分野は、今どのような状況にあり、これからどこへ向かうのでしょうか。最前線で指揮を執る、佐渡市健康医療対策課の兵庫課長に、現状の課題と未来への展望についてお話を伺いました。

◇ 佐渡市の人口減少が進む中で、医療・介護・福祉の現場ではどのような課題を感じていらっしゃいますか？

ご指摘の通り、佐渡市では全国平均を上回るスピードで高齢化が進み、既に高齢者人口の減少局面を迎えており、市内における医療や介護の需要も減少しています。また、佐渡のみならず地方の病院では、人口減少や医療の度合いが低い高齢者が長く入院することなどにより、収支が悪化し厳しい経営状況になっているため、これまでの医療体制を維持していくことが難しい局面になっています。さらに、担い手不足も深刻化し、医師や看護師、介護職員、福祉専門職など、あらゆる職種で人材の確保が難しくなっており、職員への負担が増しています。それにより、サービスの提供体制が追いつかない可能性も懸念しています。

◇ そのような課題に対し、佐渡市として、現在どのような取り組みを進めていますか？

これらの課題を解決し、市民の皆様が佐渡で安心して暮らせる環境を守るため、市としても、日夜様々な角度から持続可能な医療を提供できるよう取り組んでいます。

私たちのビジョンは、「市民一人ひとりが、住み慣れた地域で心身ともに元気で暮らし続けられる佐渡」を実現することです。そのためには、病院単独で人を支えるのではなく、医療・介護・福祉が一体となり、さらに「住まい」「生活支援」「予防」といった分野が連携し、地域全体で人を支えるシステムをより強固にしていかなければならないと考えています。

特に力を入れているのは、医療・介護・福祉が、それぞれの壁を越え連携して市民の皆様を支える体制づくりの深化・推進と、「人材確保・育成」です。医師や看護師の誘致定着に向けた支援制度の拡充や資格取得支援、未来の担い手を育てるための奨学金制度も整備しております。

さらに、医療提供体制の維持・確保のため、診療所の支援やオンライン診療、訪問看護を中心とした在宅医療の確保を推進しており、佐渡において市民の皆様が島のどこに住んでいても、必要なサービスを受けられるよう、きめ細やかな対策を講じるよう努めています。

◇ 今後、佐渡の医療は、どのように変化していくと予測されますか？

特に、将来を見据えたビジョンや方向性があれば教えてください。

人口減少は避けられない現実であり、限られた医療・介護・福祉サービスの人的、物的、経済的資源の有効かつ効率的な活用に向けて市民の皆様を含めた島全体で考えていくとともに、ご自身の健康により関心を持っていただき、一人ひとりが日常生活を健康に過ごす時間（健康寿命）をより長くするために生活習慣病やフレイルなどの「予防」がより重要になると考えています。

◇ 最後に、市民の皆様へメッセージをお願いします。

改めてになりますが、市民の皆様にはご自身の健康に関心を持っていただきたいと思います。そのために健康診査、がん検診や地域の健康増進活動に積極的に参加していただきたいと思います。

佐渡が直面する課題は大きいですが、市民の皆様と共に、関係機関、そして行政が心を一つにし、知恵と力を合わせ、共に歩んでいきたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

佐渡の地域福祉を支える「縁の下の力持ち」

佐渡市社会福祉協議会の挑戦

佐渡市社会福祉協議会　福祉課 課長補佐
髙野康栄様に伺いました。

少子高齢化と過疎化が進行する佐渡では、地域が抱える課題は年々複雑化しています。そんな中、「縁の下の力持ち」として地域住民の生活を支えているのが佐渡市社会福祉協議会（以下、社協）です。多岐にわたる活動を展開する社協の最前線でご活躍されている髙野さんに、現状の課題と、具体的な取り組みについてお話を伺いました。

地域福祉・ボランティア活動の強化と新たな拠点「ほっとてらす」について

◇ 現在、地域福祉やボランティア関係で特に強化している事業は何ですか？

佐渡市に限らず全国的に少子高齢化による人口減少が進行し、地域活動の担い手不足が深刻化しています。また、新型コロナウイルスの影響でサロンや地域の茶の間活動の休止を余儀なくされた場所もあり、つながりが希薄になりました。

このような状況を打開するため、私たちは地域の支え合いや助け合い活動を推進する「生活支援体制整備事業」に力を入れています。その具体的な取り組みとして、令和七年一月から佐和田地区の河原田商店街に常設の居場所「ほっとてらす」を開設しました。この居場所は、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらずどなたでも自由に利用できる交流の場です。ここでは敢えて決まったプログラム設けず、本を読んだり、来訪者とおしゃべりしたり、仕事をしたりと「やりたいことは自分で決める」ことを大切にしています。この「ほっとてらす」を拠点に、いろいろな方々が交流していただき、生きがいを見つけられ、つながりと助け合い活動のきっかけの場になってほしいと考えています。

見守り、防災、買い物支援について

◇ 地域の生活課題に対して、具体的にどのような取り組みをされていますか？

地域の見守り活動や地域の茶の間・サロン活動への支援・推進を行っています。特に、令和六年一月に発生した能登半島地震があったことから、地域福祉懇談会を通じて地域の支え合いマップと併せた「防災マップづくり」にも力を入れています。

買い物支援と地域交流を組み合わせた取り組みとして、両津デイサービスセンターかんぞうを会場に、コープデリにいがた様と連携し、買い物支援とお茶飲みを組み合わせた「お買い物サロン」を開設しています。

未来の担い手を育てる取り組みについて

◇ 相談支援に携わる専門職連絡会では、どのような取り組みをされていますか？

私たちも、提供体制協議会さんの事業に参画し、専門職のスキルアップと人事交流を目的とした、インタラクション（交流）研修「ふくボラ出前塾」を実施しています。参加した専門職が互いの業務を知ることで関係性を深め、利用者様へのより良い支援につながるよう努めています。

内容は、学校や自治会、企業、事業所に出向き、高齢者疑似体験や災害ボランティアなどをプログラムとした講座などを実施しています。こういった機会を活用し、相談業務の魅力ややりがいを伝え、医療・介護・福祉分野へ興味関心を持ってもらえたらと思っています。

また、佐渡市とウエルシア薬局様との協定による移動販売と連携した、停車場所を利用した居場所づくりを進めています。週に一度顔を合わせることによりお互いの見守りにもつながったり、おしゃべりや相談を通じた関係づくりの場としてご利用いただいております。

佐渡の地域福祉の未来を支えるため、これからもスタッフ一同頑張って参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

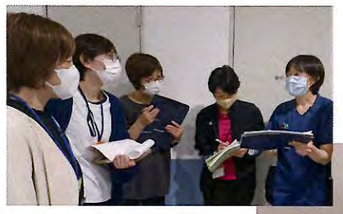
一般社団法人
佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会

「しまみらい」ってどんなところ？

美しい海と山、人に育まれてきた豊かな佐渡。今、人口減少と少子高齢化が急速に進み、高い医療・福祉需要を支える働き手が大きく不足しています。これまであたりまえだった佐渡の医療福祉は大きな転換を迫られています。
佐渡で安心して暮らしていくために私たちは立ち上がりました。
行政、病院、診療所、薬局、介護事業所、福祉事業所などが互いに手を取り合って市民の生活を支えていくしくみ、「一般社団法人 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会（しまみらい）」の設立です。

しまみらいの活動

「しまみらい」は、医療・介護・福祉サービスを持続的に提供できる体制をめざして活動しています。組織体制は、「連携委員会」を中心に病院有床診療部会、介護部会、在宅医療部会、障がい福祉サービス部会、学習研修部会、広報部会の6部会を持ち、専門的視点から課題解決に向けた検討と実践を行っています。



一般社団法人
佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会
しまみらい
Sado Integrated Healthcare Network Association

沿革

平成21年	7月	医療ネットワーク整備検討会開始 （平成21年度厚生労働省地域医療再生基金事業）
平成22年	4月	「佐渡地域医療再生計画推進会議」設置
平成24年	9月	特定非営利活動法人「佐渡地域医療連携推進協議会」設立
平成25年	4月	地域医療連携ネットワークシステム「さどひまわりネット」運用開始
平成30年	3月	任意団体「佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会」設立
令和3年	11月	一般社団法人「佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会」設立
令和7年	4月	医療介護コミュニケーションシステム「さどヘルスケアナビ」運用開始
令和7年	5月	「佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会」の愛称を「しまみらい」に決定

しまみらいの事業

さどひまわりネット

「さどひまわりネット」は、市民のみなさまの病名、お薬、検査結果、手術などの医療情報や健康診断結果を関係機関で参照し、安全で効率的な医療を図る情報システムです。

さどヘルスケアナビ

「さどヘルスケアナビ（りんくる）」は、これまで電話やFAXを用いていた医療・介護・福祉の連絡手段をひとつにまとめ、迅速で効率的な業務を図るコミュニケーションシステムです。

特養申込一元化窓口

これまで施設ごとに必要だった特別養護老人ホーム（特養）への入所申込をひとつの窓口で受け付けるしくみです。市民のみなさまと施設側の双方で受付手続きを大幅に減らすことができます。

佐渡在宅医療推進センター

入院できる病床が少ない佐渡で、市民のみなさまが医療を受けながらできるだけ自宅などで暮らせる体制を整備していきます。

入退院調整ルールガイドラインの策定

高齢社会では入院診療と介護福祉の密接で円滑な連携が必要です。このために入退院調整ルールを策定、常に見直しを行いながら必要な情報の交換を図っています。

多職種連携研修会

市民のみなさまの暮らしを支えるには、医療・介護・福祉の多くの職種がつながることが大切です。「多職種連携研修会」を開催し、専門職同士が学び合い、「顔の見える関係」づくりを進めています。市民のみなさまのご理解とご参加を進める方法も考える機会です。

市民参画

働き手が減る中での「しまみらい」の活動には、市民のみなさまのご参加が不可欠です。健康づくり、病気の予防、介護予防は市民ひとりひとりの行動です。自分ごととして地域の取り組みに関わるきっかけとなるイベントを開催します。

会員（順不同）

社会福祉法人 佐渡市社会福祉協議会
新潟県厚生農業協同組合連合会
一般社団法人 佐渡歯科医師会
ささえ愛コミュニティ生活協同組合新潟
社会福祉法人 佐渡ふれあい福祉会
社会福祉法人 佐渡前浜福祉会
社会福祉法人 しあわせ福祉会
社会福祉法人 よつば福祉会
一般社団法人 佐渡医師会
社会福祉法人 佐渡福祉会
社会福祉法人 佐渡国仲福祉会
社会福祉法人 佐渡寿福祉会
社会福祉法人 勇樹会
社会福祉法人 とき福祉会
社会福祉法人 愛宕福祉会
社会福祉法人 庄やの里
公益社団法人 新潟県看護協会
社会福祉法人 小佐渡福祉会
社会福祉法人 大佐渡福祉会
医療法人 愛広会
医療法人 おけさ会
株式会社 クローバー佐渡
株式会社 R&M
株式会社 ツクイ
佐渡薬剤師会
株式会社 老介護とき
株式会社ビジュアル ビジョン
合同会社 mio
合同会社 和
佐渡市

Event Info

「人生を豊かに生きる」セミナー

10月4日（土）　あいぽーと佐渡　13：30 開演（無料）

やました ひでこ 先生の講演

「モノが減ると、心が潤う」
～断捨離で日々ごきげんに生きる知恵～

※断捨離はやましたひでこの登録商標です。

小田（おだ） 隆晴（たかはる） 先生の講演

「健やかな老後の援助」

主催：一般社団法人 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会 / 佐渡市在宅医療推進センター

※会場の都合により人数には限りがございますので、参加をご希望される方は、事前に佐渡市在宅医療推進センター（0259-63-6376）までご連絡下さい。

Spot Light　佐渡で輝くミャンマーの介護士：異文化の壁を乗り越え、未来を拓く

佐渡の介護施設で働くミャンマー出身の介護士、モモさんとルインさん。現在二人は、ミニ特養うしろやまに勤め、利用者さんの日常生活を支える大切な役割を担っています。今回は、そんな彼女たちの日本での挑戦、仕事のやりがい、そして将来への想いを伺いました。

◇お二人の現在の仕事内容を教えてください。

モモさん：「基本的な利用者さんのお世話をしています。食事や排泄の介助、寝る時や起きる時の付き添い、お風呂の介助、そして移動の介助などですね。」

ルインさん：「私も同じく基本的な介助が中心です。特に、利用者さんが『家に帰りたい』とか、夜中に『起きたい』と言われる時は、安心して眠ってもらえるように、そばにいるようにしています。」

ミニ特養 うしろやまで働くお二人

左 / モモ　ミン　アウンさん
右 / ルイン　ルイン　マさん

◇日本とミャンマーでの介護の違いや、日本に来て困ったことはありますか？

モモさん：「佐渡のおばあちゃんと話す時、語尾に『これでいいわさぁ～』と『〇〇だわさぁ～』とつく佐渡弁が分からなくて（笑）難しいです！」

ルインさん：「ミャンマーとは介護の方法が違います。『認知症』についても教科書では知っていましたが、佐渡に来て初めて認知症の利用者さんと接し、その状態を知りました。人によって色々な状況があるので、よく見なければいけないと感じています。」

◇仕事でやりがいや、嬉しさを感じるのはどんな時ですか？

モモさん：「おばあちゃんの笑顔が嬉しいです！笑顔を見ると、本当にこの仕事をしていて良かったなと思います。」

ルインさん：「利用者さんと一緒に行う体操ですね！あとは、一緒に歌を歌う時間も大好きです。」

◇ミャンマーのご家族とは連絡を取っていますか？

モモさん：「私は孤児院育ちなんです。でも、孤児院のみんなが家族のようなもの。女性だけで百人以上いる孤児院で育ちました。育ててくれた人に給料が入ったことを伝えたり、日本のお菓子をテレビ電話で見せたりしています！」

ルインさん：「ビデオ通話でお母さんや家族に『大変だけど慣れたよ』と話しています。みんな元気でいてくれるのが一番ですね。」

◇将来の目標を教えてください。

モモさん：「私を見守ってくれた孤児院をサポートしたいです。お給料も孤児院に寄付しています。」

ルインさん：「母国に戻って日本語の先生になりたいです。そして、介護の教室も開きたいと思っています。」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

取材中、モモさんが孤児院での暮らしを思い出して涙ぐむ場面もありました。ミャンマーでは治安が不安定なため、高齢者が一人で外出することはほとんどなく、家族が高齢者の面倒を見る文化が根強いと言います。そんな中で日本に渡り、介護の現場で奮闘するモモさんとルインさん。二人の言葉からは、故郷への深い愛情と、日本で学び得たことを活かして将来母国を支えたいという強い決意が感じられました。

彼女たちのひたむきな努力と温かい心は、日本の介護現場に新しい風を吹き込み、利用者さんの日々を彩っています。モモさんとルインさんの今後の活躍から目が離せません。